

第3 「学校応援団」の実践事例

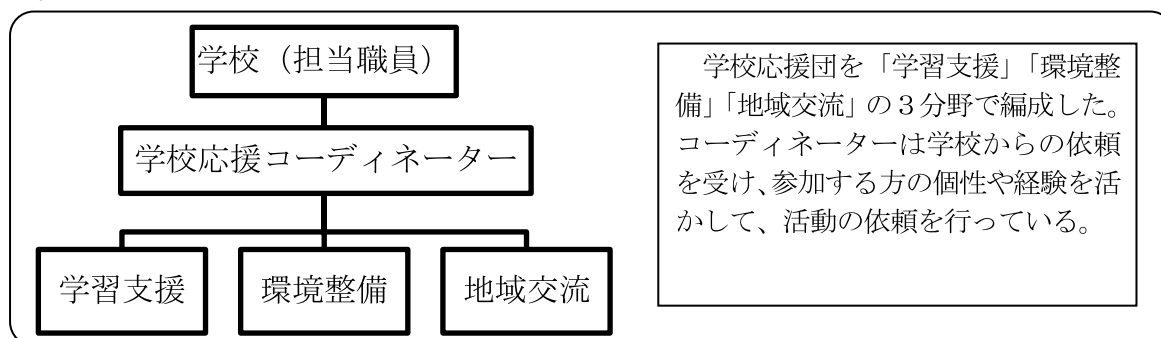


昔の遊び
行田市立荒木小学校

鴻巣市立広田小学校の実践

1 児童数・学級数 230名・11学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	2名
担い手	現PTA会長（1）、元PTA会長（1）
行っている業務	○学校支援活動の企画、ボランティアの募集、学校とボランティアの間を調整する「調整役」として活動している。 ○必要に応じ、PTA執行部会・役員会やPTA組織の各部会の場において提案する。

4 充実・発展に向けた工夫

(1) 地域人材の確保・発掘

- ・年度当初に学校応援団募集のチラシを地域の回覧板を活用して配布している。
- ・学校が学校応援コーディネーター等と連絡を取り、加入状況の確認を行っている。

(2) 活躍の場の設定

- ・年間指導計画に学校応援団の活動を位置付け、教員の異動や応援団のメンバーが代わっても円滑な連絡調整ができるようにしている。

(3) 児童との交流

- ・お世話になっている学校応援団や地域の方々に対して、3学期に「感謝の会」を開催している。自分たちの生活や学習が多くの方に支えられていることに気づき、感謝の思いを伝える場となっている。

5 特徴的な活動内容

4年生の総合的な学習の時間では、「ささら龍頭舞に挑戦しよう」の学習を6月から半年間、週2時間行った。ささら保存会の方に、棒使い・笛吹き・龍頭舞・唄上げの指導をしていただき、学習の成果を秋の学校公開日に全校児童、地域の方々に公開した。学習を通して、児童は地域の方との交流や地域の伝統のすばらしさを肌で感じる事ができた。【ささら龍頭舞を踊る児童】



6 成果と地域の方の声

(1) 成果

学校応援団による学習支援により、多くの方々が児童に関わり、個に応じた指導や、地域の特色を生かした指導を行うことができています。また、校外学習の引率の支援をしていただくことにより、児童の安全の確保をすることができ、学習効果を高めることができた。

(2) 地域の方の声

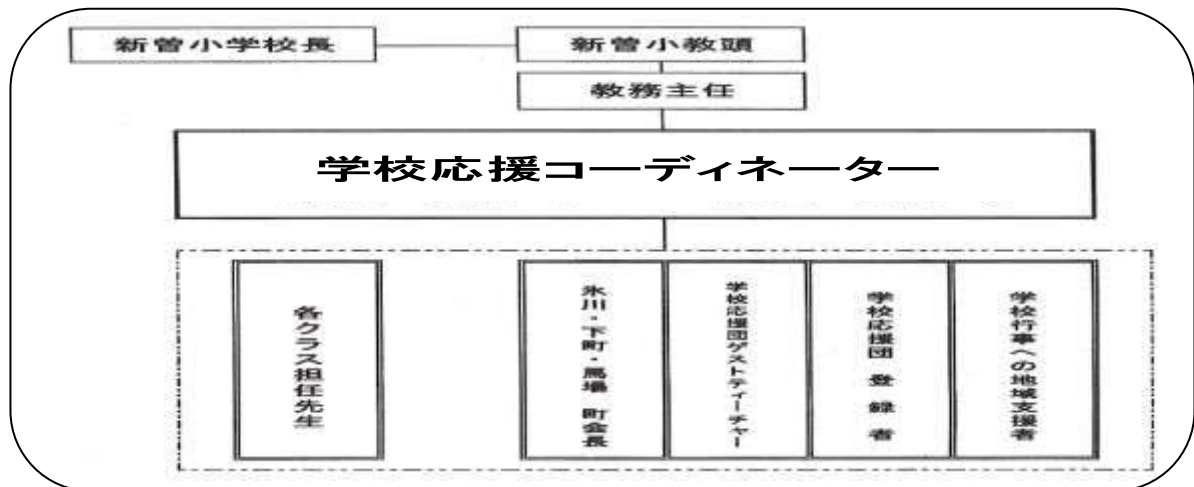
ささら龍頭舞を指導してくださった方からは、「地域の伝統を続けていくには、子供たちが『ささら』に興味をもって親しんでくれるのが一番。授業がそのきっかけになる。」という声があった。



【おはやしをおこなう児童】

戸田市立新曾小学校の実践

- 1 児童数・学級数 634名・20学級
2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	4名
担い手	現 PTA 関係者（4）
行っている業務	○学校担当者（教務主任）との連絡・調整 ○学校応援団との連絡・調整 ○教育活動への助言

4 充実・発展に向けた工夫

- (1) 【連絡会議の定期開催】学校（学年）からの依頼を集約し、月1回の学校応援コーディネーター会議で連絡・調整を行っている。会議には担当学年も参加し、活動の目的を共有したり、昨年度の反省を踏まえて支援内容を修正したりすることで、教育活動のさらなる充実と発展を目指している。特に、音楽会や全校遠足などの学校行事については、学校応援コーディネーターの第三者としての意見が改善に大いに役立っている。
- (2) 【連絡調整アプリの活用】80名を超える学校応援団への連絡・調整には、専用のアプリを使用している。これにより、ペーパーレスでの一斉連絡が可能となるだけでなく、応援団の参加の有無をスピーディーに確認でき、負担軽減につながっている。

5 特徴的な活動内容

12月に開催される「新曾小まつり」では、各クラスの出し物に加え、学校応援団による工作体験コーナーを設けている。普段の活動支援とは異なり、学校応援団が中心となって内容を企画・運営することで、応援団の主体性を高めるとともに、児童とより深く関わる機会となっている。



6 成果と地域の方の声

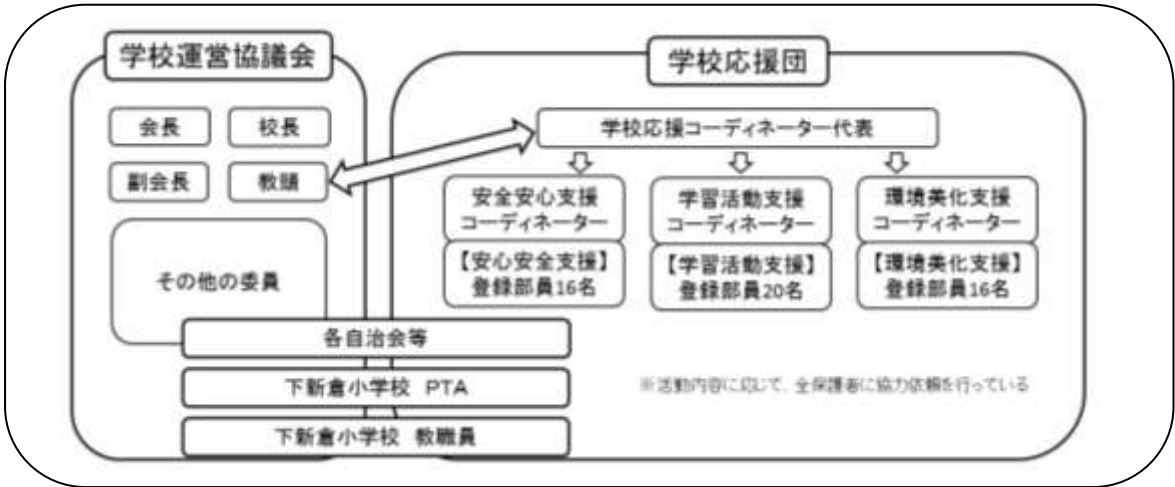
【児童に工作の作り方を教えている】

学校応援団のサポートにより、教育活動の充実はもとより、児童の安全確保や教職員の負担軽減、地域の方々の声を生かした教育活動の実現につながっている。

学校応援団や地域の方々からも、子供たちの様子や教育活動のねらいを理解することができ、とても有意義であるとの声をいただいている。今後、社会に開かれた教育課程の実現に向け、更なる充実を目指していく。

和光市立下新倉小学校の実践

- 1 児童数・学級数 512名・19学級
- 2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	4名
担い手	自治会関係者、スクールガードリーダー、元PTA会長、外部読み聞かせ団体代表
行っている業務	○学校担当者との連絡・調整 ○新たな学校応援団登録者の募集活動

4 充実・発展に向けた工夫

- (1) 学校応援団実施要綱に基づき年度当初に追加募集を行い、新体制を組織している。また、ホームページ上でも随時募集を行い、支援者の増加を図っている。
- (2) 学校運営協議会と学校応援団の両方に登録していただいている方（現在3名）を中心に、学校応援コーディネーター代表と連携して、地域人材の更なる発掘をしつつ、主体的・自主的な活動が行えるようにしている。
- (3) 本校は開校4年目で、まだ応援団の登録者数は少ないことから、活動内容によっては、PTAと連携したり、全保護者にも応援を募ったりする等、活動の活性化を図っている。

5 特徴的な活動内容

【6年生と合同の環境美化活動】

3学期に6年生と学校応援団と合同で、卒業に向けた環境美化活動を行っている。今年度は3月に、校庭の芝補修を計画しており、昨年度はプランターの花植えとガラス清掃を行った。学校応援団だけでなく、PTA環境委員からも協力があり、総勢100名以上で活動を行うことができた。



【環境美化活動】

6 成果と地域の方の声

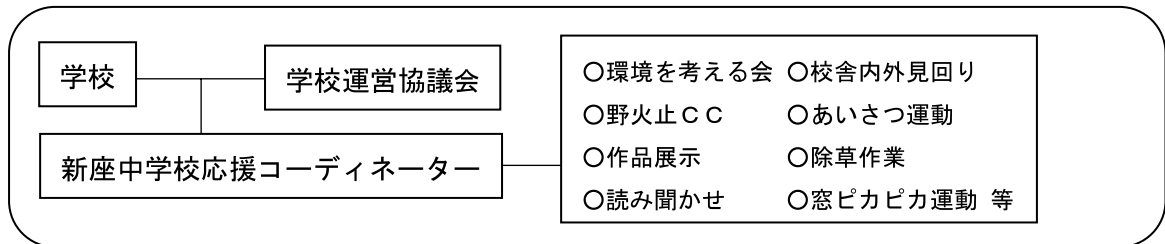
学校応援団を運営母体としつつ、学校運営協議会やPTA、自治会など広く協力を得ることができ、支援活動が地域学校協働活動への足掛かりとさせることができた。

地域の方からは、地域の子供たちと直接関わることで、校外でもあいさつや言葉を交わす機会が増え、「子供たちの日々の成長を実感できるようになった」という声があり、学校という場を通して、地域の世代を超えた絆が深まった。

新座市立新座中学校の実践

1 生徒数・学級数 532名・18学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	P T A会長
行っている業務	○学校（担当者）やボランティアとの連絡・調整 ○学校運営協議会と地域をつなげる ○新たなボランティアや団体の募集活動

4 充実・発展に向けた工夫

本校では、P T A会長が学校応援コーディネーターを務め、地域・保護者と学校の重要な橋渡し役を担っている。また、学校運営協議会副会長も務めており、学校運営協議会委員である民生児童委員や町内会長、元学校長へ、地域学校協働活動についての理解や指導、協力を求める役目も担っている。コミュニティ・スクールである学校の強みを生かし、コーディネーターと学校の連携を密にしながら、充実・発展に向けて取り組んでいる。

5 特徴的な活動内容

(1) 学校の環境を考える会

本校の校舎に囲まれた位置に中庭がある。美しく手入れされた中庭は、生徒や教師の癒やしの空間となっている。その中庭の整備に協力を得ている。中庭の鯉や川蟬、瓢箪やベコニア等が、学校生活に潤いを与えている。



【手入れされた中庭】

(2) 野火止クリーンキャンペーン

有志生徒及び保護者、町内会、小学校、ボランティア団体、自治体等が連携し、学校周辺にある野火止用水や平林寺周辺の環境保護活動を行っている。本年度は自治体の判断から高温のため中止となったが、来年度から再び学校独自で取り組む予定である。

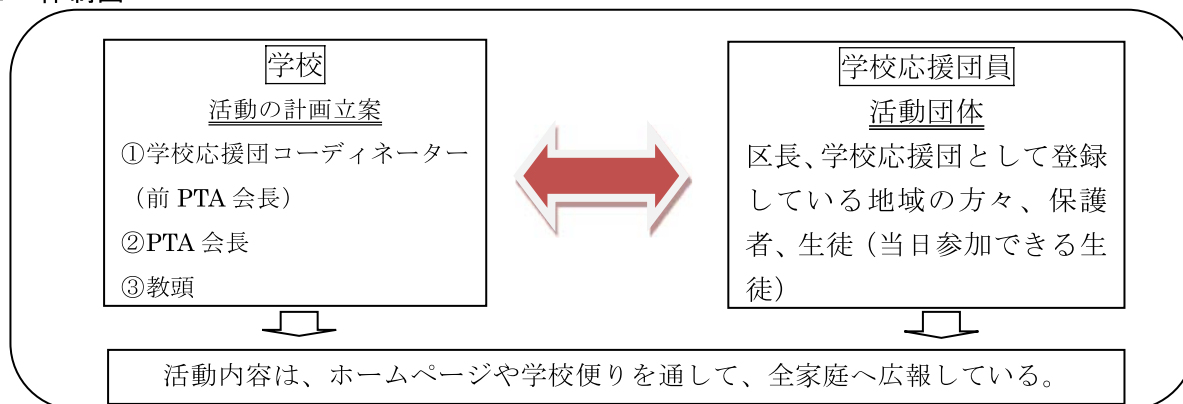
6 成果と地域の方の声

コミュニティ・スクール指定第1号の本校は、保護者や地域の方々から多大なる協力を得ている。生徒の自発的な挨拶や人懐っこさ、奉仕的に活動に取り組む態度の向上は、活発な地域学校協働活動から得られた成果だと考えられる。このような生徒の活躍や学校の取組の成果を、更に大々的に広めてもらいたいとの声が挙がっており、HPや各種たより等での更なる発信に取り組んでいく。

桶川市立加納中学校の実践

1 生徒数・学級数 378名・12学級

2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1名
担い手	加納中学校学校応援団コーディネーター(前 PTA 会長)、
行っている業務	○学校から依頼を受け、学校応援団に支援を依頼する。 ○地域の情報を学校に提供する。 ○学校の情報を地域に周知する。

4 充実・発展に向けた工夫

- (1) 年度当初に年4回の実施日を応援団員と保護者に連絡している。実施日は、1学期が5月(体育祭前)、2学期が8月(文化祭前)と11月(校内音楽会前)、3学期が3月(卒業式前)に1回ずつである。また、学校行事である体育祭、文化祭、校内音楽会に招待し、学校と地域との連携を深める機会としている。
- (2) 学校応援団活動日前には、学校応援団コーディネーター(前年度 PTA 会長)と教頭が打合せを行い、活動日当日は円滑に作業が進むよう万全の準備をしている。
- (3) 3学期3月(卒業式前)、年度最後の活動後には応援団員や教職員が集まり、意見交換会を行うことで、次年度への取組の充実を図っている。

5 特徴的な活動内容

学校は、生徒や保護者、時には地域の方々が集まる場所であり、避難場所にもなっている。本校は地域に根ざした学校である。そして、学校応援団の方々の活動からは、生徒が地域を大切にすることを学ぶ素晴らしい機会にもなっている。例えば、正門付近では花や植木に囲まれており、剪定された植木に触れることができる。生徒にとっては日本の庭園文化を感じることができ、整然とした学校環境となっている。

6 成果と地域の方の声

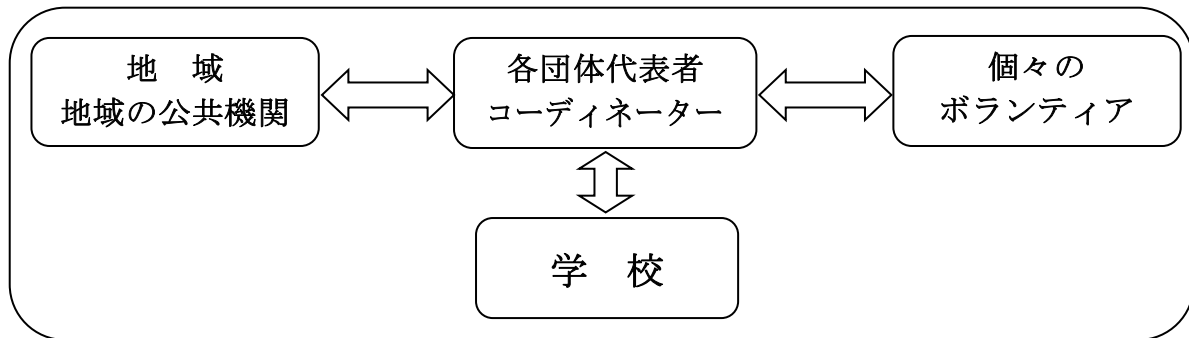
応援団員である地域の方々には、生徒と交わす会話から、楽しみややりがいを感じていただき、学校応援団活動が継続となっている要因の一つである。また、地域の人々によって学校の環境整備がなされていることは、生徒たちにとって、将来、地域を大切にすることを育てることにもつながっている。



【剪定された植木に囲まれた
生徒通路】

北本市立北小学校の実践

- 1 児童数・学級数 422名・13学級
2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	4名
担い手	自治会長・PTA・地域の方
行っている業務	○学校（担当者）との連絡調整 ○ボランティアとの連絡調整 ○登下校の見守り・学校内の樹木剪定

4 充実・発展に向けた工夫

(1) 連絡体制の工夫

各団体の代表者からの連絡体制がとれているので、学校側との連携もスムーズである。その為、学校からの依頼内容等が迅速に伝わりと共に学校施設や内外の環境の様子も分かっているため、作業等の伝達もしやすい。

(2) 各団体代表者の工夫

本校卒業生や地域に精通している方が各代表者になっているので、地域の活動や学校の活動の両面から情報交換をすることができ、円滑な活動に繋がっている。

5 特徴的な活動内容

- (1) 登下校の見守り隊：PTA、自治会長を初め、スカイハイツ立ちんぼ会、防犯推進委員が定期的に連携を図り、日々の登下校の見守りや通学路点検を行っている。
- (2) 学習活動への支援：読み聞かせ、むかし遊び、学区探検等子供たちと関わりながら活動をしている。
- (3) 環境整備への支援：樹木選定や花の植え替え及び整備、落ち葉掃きなど時間を調整しながら活動している。



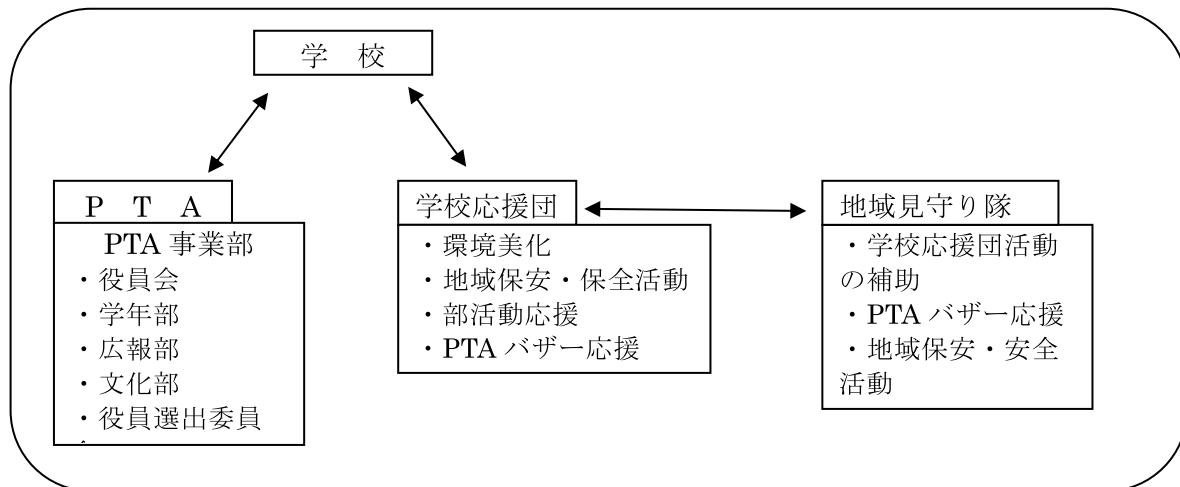
【樹木の剪定】

6 成果と地域の方の声

- (1) 成果：事故防止や防犯、環境整備に大きな貢献をいただいている。また、世代間交流の促進につながるとともに、「読み聞かせ」により児童が本の世界を味わうこともできている。
- (2) 地域の方の声：子供たちと触れ合えるのが楽しい。学校の様子も分かり、子供たちの成長も見られるので嬉しい。毎年、ありがとう集会に招かれるのを楽しみにしている。

伊奈町立南中学校の実践

- 1 生徒数・学級数 275名・10学級
2 体制図



3 学校応援コーディネーターについて

コーディネーター数	1 名
担い手	学校評議員・学校関係者評価委員
行っている業務	○学校との連絡調整 ・個々の応援団員との連絡調整 ○地域見守り隊との連絡調整

4 充実・発展に向けた工夫

- (1)【学校応援団会議】学校、家庭、地域の連携をより密に、また強固なつながりとするために、学校応援団コーディネーターが声掛けをして学校、PTAとの合同会議が設定された。どのような運営の在り方を行っていればより生徒に還元できるか、また、本学区における安心・安全な地域作りのためにどのような取組が必要かを検討した。
- (2)【PTA運営委員会・全体委員会に参加】定期的に行われるPTAの運営委員会・全体委員会等においてオブザーバーとして自主的に参加していただいている。PTA各事業部の活動報告と活動予定を確認し、学校応援団として関われる活動内容を模索し、PTA役員会との協議を行っている。

5 特徴的な活動内容

地域の保安・保全のために、夏休みには地域防犯会議を行い、事故・防犯に関する危険箇所等について話し合われた。また、毎年PTAバザーにおいて、学校応援団を中心とした活動が行われている。さらに、毎年の通例行事として体育祭前等に全校除草作業、花壇の植え替え作業を行っている。地域の方とともに活動することを通して、有意義なふれあい活動の機会となっている。



全校除草作業

6 成果と地域の方の声

コーディネーターによる献身的な見守り活動や応援団の方等による学校行事やPTA行事への協力等により、生徒が地域の方と積極的に挨拶をかわすなど、親密感を抱いている様子が見える。また部活動の応援については、大変励みになっている。

また地域で、生徒たちに積極的に話しかけていただいていることから、学校では見られない生徒の様子について情報提供をいただいている。